

会 議 録

|             |  |
|-------------|--|
| 会議名         | 令和2年度第1回印西市地域福祉計画推進委員会   |
| 開催日時        | 令和2年7月21日（火） 午前9時00分から午前10時13分まで   |
| 開催場所        | 印西市立中央公民館 4階 視聴覚室  |
| 出席委員        | 松山毅委員長、吉野康夫副委員長、小林久男委員、関野庄悦委員、本田薫委員、<br>岩本清委員、渡邊勝久委員、近藤幸一郎委員、三島木健委員、中村智恵子委員、<br>山口茂委員、山下順三委員<br>計12名   |
| 欠席委員        | 1名   |
| 出席職員等       | [事務局] 社会福祉課 堀越課長、小作課長補佐、稲村係長、荒川、石井   |
| 傍聴者         | 1名   |
| 会議次第<br>議 題 | 1. 開会<br>2. 委員長挨拶<br>3. 議事<br>(1) 第3次印西市地域福祉計画の進捗について<br>4. その他<br>5. 閉会   |
| 配付資料        | <ul style="list-style-type: none"> <li>・会議次第</li> <li>・【資料1】 第3次印西市地域福祉計画進捗状況調査について</li> <li>・【資料2】 評価C・D事業の改善に向けての対応について</li> <li>・【資料3】 第3次印西市地域福祉計画達成状況（令和元年度）</li> </ul> |

会議概要・審議経過

|   |
|---|
| <p>1 開 会</p> <p>資料の確認</p> <p>開催要件の報告</p> <p>会議の公開と傍聴について報告</p> <p>会議の録音について報告</p> <p>2 委員長挨拶</p> <p>3 事務局職員紹介</p> |
|---|

## 議事（1）第3次地域福祉計画の進捗について

【事務局】 それでは、次第3の議事に移る。ここからの進行については、本委員会設置要綱の規定により、松山委員長にお願いする。

【議長】 それでは、議事に入る前に議事録署名人を指名する。  
議事録署名人に「山下委員」と「本田委員」にお願いする。

【議長】 それでは、議事に入る。（1）「第3次印西市地域福祉計画の進捗について」事務局から説明をお願いする。

○事務局より説明

○質疑

【委員】 昨年12月の推進委員会でも話したが、進捗評価は自己評価であり、地域福祉計画に対する当事者意識が各課で違いがあると感じる。市役所全体として当事者意識をしっかりと持ってほしい。また、実際市民はどう感じているかが大切であり、前年度に行った市民アンケートを重視しなければならない。  
あと、いつも質問しているが、避難行動要支援者避難行動計画が担当者会議で作成しているとなっているが、その後はどうなっているのか。

【事務局】 元々あった計画を去年更新し、本年度から名簿を作成、対象者に支援が必要か確認する考えである。

【委員】 過去の推進委員会で色々な提案があり、良い計画が出来ていると思うが、なぜ仕切り直しになるのか。何年も同じことをやっているが、実行できなかった場合は原因を突き詰めなければ進捗しない。

【議長】 他には、いかがか。

【委員】 資料11ページの「町内会未組織地域の設立支援や転入者への加入促進パンフレットの配布」について、できたという評価になっているが、別の資料では自治会の組織率が年々下がっており、評価が甘いと思う。地域福祉の課題と言えるので、厳しく見たほうが良いと思う。

【事務局】 活動したことに対する評価となっており、成果に対する評価になっていない。評価方法を変えていく必要を感じている。

【委員】 資料2で、社会福祉協議会はC評価を多く付けている。令和元年度は、台風15号・19号、大雨で市内の支援、県内の災害ボランティアセンターに派遣をしたが、その後コロナウイルスが流行し、年度後半に予定していた事業は中止になったものが多く、このことが評価の理由である。しかし、事務局の説明にあったとおり、県内4か所の災害ボランティアセンターに職員を派遣し、ボランティアセンターの運営を経験

したことは収穫であった。

これまで開催していた事業を今後どうするかは検討中である。新しい形での地域福祉を考えなければならないと思う。今、総合支援資金や緊急小口資金など貸付が増加している。年間20件程度だったが、既に400件近くになって事業の優先順位が変わってきており、社会福祉協議会は引き続き苦しい状況である。

【委員】 市総合防災訓練が天候不良により中止となったが、自分が運営する社会福祉法人も参加予定であったため、残念だった。自主訓練はしているが、地域の人との合同訓練をしたいという声が職員からも上がっている。コロナウイルス流行があり、難しいと思うが、ぜひ一度実施してもらいたい。

【委員】 市の防災訓練は2年連続中止になっている。天候不良なら中止ではなく、予備日を設定できないか。

【事務局】 予備日の設定については、他からも同意見を聞いたことがある。一方で、関係団体が大変多いため、調整がつかないということも聞いている。ご意見は改めて防災課にお伝えする。

【委員】 市全体の防災訓練の意義はどうか。木下地区の水害の恐怖とニュータウン地区の感じ方は全く別だと思う。市全体よりも各地域で避難場所の確認など地域の特徴に合わせ、日程も別でよいのではないか。  
また、今後は災害の急激な発生と避難場所での感染症予防の両面から、何に注意すればよいか前もって考えておくことが大切だと思う。

【事務局】 確かに各地域で注意すべきことが違い、対応も変わってくると思う。町内会・自治会、防災組織で自主的に避難訓練を行っている地区があり、そのような取り組みを市が支援している事例がある。

【委員】 地区社協で活動しているが、自分の参加する支部は新型コロナウイルス流行の影響で今年度の事業はすべて中止している。よい計画ではあるが、今年度は無理に進めなくてよいのではないか。行政はどのように考えているのか。

【議長】 市と社会福祉協議会、民生委員が集まっているので、現状と今後どのように地域福祉活動をしていくか会議の後半で意見交換をしたいと考える。まず、計画の進捗についてはいかがか。

【委員】 今までの意見を伺うと災害に関することと地域のコミュニティに関するところが一番の関心事であると感じる。特に要支援者については、市の窓口が防災課であったり、いつの間にか高齢者福祉課、社会福祉課に移ったりして住民が縦割りの弊害を感じている。自分が町内会の活動をしていた時は、庁内会長に名簿が渡されて支援者計画をつくることになっていたが、報告を見ると各部署がそれぞれ取り組みをして、概ねできていると評価している。住民としては、どこを話をして、どう計画して、どう動けばよいか把握できていない。

もっと市民目線に立って市民が何を望んでいるか把握し計画に位置付けるか、あるいは、市がもっと地域に踏み込んで計画を作っていかなければならない。去年小林地区は浸水被害で2度避難指示が出て、特に必要性を感じた。  
評価も客観的なものを加え、取り組みに対する住民の意見を具体的に掲載するなどしてほしい。

【議 長】 その他、どうか。

【委 員】 健康ちょきん運動については市民が自主的に活動し、市は後方支援をするとなっているが、新型コロナウイルス感染防止の対応として、活動の判断を各団体に委ねるのはいかがなものか。大きな社会問題となっている時、市として推進している事業について方針が示されなかったのは大変残念であった。  
また、換気等の設備の問題で健康ちょきん運動ができない団体があるが、市の施設を確保して使用させることはしないのかと生きがい支援班に聞いたところ、検討するということだったが、まだ回答がない。地域福祉の核となりうる活動であり、住民同士のふれあいの場として推進すると位置付けているならば、各団体にヒアリングする等して考えてもらいたい。  
もう一つは、70歳以上の人に対するふれあいバスの無料パスがはじまったが、市役所、印旛支所、本埜支所でしか受け付けない。高齢者に対するよい施策であるのに身近な出張所で受け付けないのは残念である。よい施策を徹底するために、出張所でできるよう検討してほしい。

【委 員】 自分の参画している会議では、70歳以上の無料パスは全員に配布したらどうかという意見があった。

【議 長】 コロナウイルス感染防止のことで移動手段のことは、この後の地域福祉計画策定委員会にも関連するので、後半で議論したい。評価そのものについてはいかがか。

【議 長】 災害時の避難行動要支援者については、関係課が合同で評価するのか。それとも課ごとの取り組みを収集して記載しているだけなのか。

【事務局】 担当課ごとの評価である。

【議 長】 目的が1つの取り組みであれば、関係課が進捗状況を共有しながら横断的に評価し、施策に繋げるという評価の仕方を検討しなければならない。横のつながりが欠けている。

【議 長】 社会福祉協議会で施設長の会議ができなかったということに関して。熊本の老人ホームで多くの方が亡くなられた時もボランティアが駆け付けたが間に合わなかったという。川沿い等の災害が想定される地域に福祉施設があるのであれば、福祉施設を含む地域の避難行動計画を踏まえた訓練を施設長の会議で議論する。  
子ども食堂、学習支援、地域福祉の基金創設など一法人ではできないが複数法人が集まればできることも施設長同士が話し合う。社会福祉法人の地域貢献が社会福祉法に謳われて数年になることもあり、積極的に推進しなければならないが、事業を単体で

やるのではなく、意図的に関連付けて推進すべきである。

また、市民にとっては活動したという評価より成果が大事である。何が良くなったのか、国民健康保険や介護保険の利用者が減った等見せ方も含めて議論していかなければならない。

【議長】 あと10分ほどだが、先ほど質問があった新型コロナウイルスの影響下において市や社協としては今後どのように地域福祉活動を進めるか方針はいかがか。

【事務局】 コロナ対策では、市も一度施設を閉めて、また開ける等状況に応じて動いているところである。都内では再び感染者が増え、市内でも感染者が出ている中で、今後何を実施し、何をやめるかは状況を見ながら対応せざるを得ない。

【議長】 社会福祉協議会はいかがか。

【委員】 支部社協の活動については、各支部の定例会で検討している。ふれあい体操など市民が集まる活動を今年度は中止とした支部もあれば、9月まで、あるいは12月まで様子を見る支部もある。活動の形を変えて、マスクづくり等に取り組むことを検討している支部もある。社協本部としては、ボランティアもサービスを受ける人も高齢者が多いので、双方の安全を重視しなければならない。現状で考えられることとしては、個人でコロナに対する考え方が違うので、他の社協の例を参考にガイドラインの作成や、参考になる活動情報の提供等である。

【議長】 各委員からアイデアや要望があれば伺いたい。

【委員】 船穂・牧の原支部は、9月から事業再開に向け準備している。しかし、東京で感染者が増えているので、できるかどうかわからない。個々の判断ではいけないと思うが、地域のふれあいの場がないことに対して、利用者から不満の声をきいている。

【委員】 コロナ関連の情報がない。熱がある場合は病院に電話するまではわかるが、市内で受診できる病院があるかどうかわからない。

また、高齢者クラブや自治会の会議ができないが、この施設では、何人までの会議ができるというような情報が出てこない。健康ちょきん運動については70%の団体が活動しているというので、高齢者福祉課に聞いたところ、屋外でやったり、2部制でやったりそれぞれ工夫しているらしいが、実施方法の情報も出てこない。少ない知識で個々に判断しなければならないので、もっと親切な情報が欲しい。

【議長】 民生委員は、どのような活動をしているのか。

【委員】 民生委員は、家庭訪問はしない。必要な人には電話で対応する。非常事態宣言解除後は必要な人には家庭訪問してもよいことになったが、望まない人も多いので、玄関先で短時間話して確認するようにしている。

また、保護司もしていて、月に何度か訪問するよう法律で決まっているが、それでも自粛するよう法務局に言われた。現在は解除されて通常に戻っている。

色々話したが、コロナ対応においては地域により意識に差がある。また、避難行動要支援者支援計画や自治会についての意識にも地域格差がある。その意識改革と行政の横のつながりを構築しないと評価はよくなるらない。

また、熊本では防災無線は雨で聞こえないところがかかりあった。助かった人は、市の防災ラジオで避難情報を知ったそうだが、普及率が45%くらいであった。自分の住んでいるところも防災無線が聞こえない。防災ラジオなどがあれば、助かる人が多いと思う。

**【議長】** やはり、情報である。皆、コロナでどうしたらよいかわからない。正解がない中で市も大変であろうが、情報収集をして市民に向けて考え方や取り組みの情報を出してもらいたい。

また、色々な活動自粛の中で、孤立の問題が聞こえてくる。電話連絡や玄関先で安否確認するだけでも見捨てられていないと感じるという。孤立している人をどのように地域につなげるかが普段の皆さんの活動だと思うが、何をしてもよいかわからないというジレンマがあると思う。まず、ホームページなどで自治会や民生委員に情報を伝えてもらい、その先はそれぞれの団体でできることを考えてもらう。その後押しとして、情報や場所、お金、専門家のアドバイスを市や社会福祉協議会に積極的にしてもらいたいと思う。

**【委員】** うちには老人がいるので、自分は会議等を断っている。また、自分の地区で新型コロナウイルスの感染者が何人か出たため、未だに親がデイサービスに通えず、地域にまで手が回らない。今年は親の命を守るために活動を自粛するしかない地域の人に言っている。申し訳ない。

**【議長】** まず、命を守ることが大事だが、色々なアイデアがあると思う。会わなくても繋がれる方法があるので、皆さんそのような工夫をしていただければと思う。それでは、これで地域計画推進委員会を終わらせていただき、休憩を挟んで策定委員会に移りたいと思う。一旦、事務局に進行をお返りする。

#### 4 その他

**【事務局】** それでは、閉会后休憩を挟んで10時20分から第4回印西市地域福祉計画策定委員会を開催する。

#### 5 閉会

**【事務局】** 以上で、「令和2年度第1回印西市地域福祉計画推進委員会」を閉会する。

令和2年度第1回印西市地域福祉計画推進委員会の会議録は事実と相違ないことを承認する。

令和2年8月27日

署名委員 山下 順三

---

署名委員 本田 薫

---